

#NICE

Numazu association for International Communications & Exchanges

— Vol.20 —

発行者 沼津国際交流協会
(企画広報部会)

所在地 沼津市御幸町16番1号
(事務局) 沼津市役所国際交流室内
☎0559-34-2529

沼津の海を満喫

5月19日、NICEでは西浦古宇の磯祭りに出かけました。
「沼津の海の行事を体験したい」と57名の在住外国人が参加。
魚のつかみどりやカニレース大会に出場したり、水軍鍋やタケ
ノコ御飯を味わうなど、初夏の一目を存分に楽しみました。



平成8年度 協会事業計画

5年目を迎えた沼津国際交流協会の8年度事業が本格的にスタートしました。本年度も実り多き活動を会員一人ひとりの手で進めましょう！

企画広報部会

- 協会事業の企画・調整
- 機関紙「ザ・NICE」の発行(5・8・11・2月)
- 国際交流情報紙の編集及び自治会組回覧(3月)
- インターネットによる広報事業の研究・開始(6月)
- 他の国際交流団体との交流及び研修会等への参加(随時)
- 国際協力事業の調査・拠点づくり(随時)

国際理解教育部会

- 日本語を語る会の開催(通年)
- 英語&日本語スピーチコンテストの開催(随時)
- 国際理解のための講演会の開催(随時)



ふれあい部会

- 在住外国人との交流
 - ・地域行事参加(随時)
 - ・相互文化体験(随時)
 - ・スポーツ交流会(12月)
- アセアン青年の受け入れ(9月～10月)
- 国際交流イベントの開催(随時)



カラマズー部会

- カラマズー市を紹介する行事の開催(4月)
- カラマズー市民訪問団の派遣(7月)
- カラマズー市高校生の受け入れ(7月)
- カラマズー市の公立高校へ留学生1名派遣(8月～翌6月)
- 英語教師他カラマズー市からの来沼者との交流(随時)



岳陽部会

- 岳陽市代表団の受け入れ
- 岳陽高等師範専科学校への留学生の派遣(9月～)
- 春節祭の開催(2月)
- 岳陽市との市民交流(随時)



その他の事業

- 沼津市中学校英語弁論大会の協賛(9月)



平成8年度総会を開催

平成8年度の協会総会を5月24日、ブケ東海で開催し、平成7年度の活動・決算報告、役員改選、また本年度の事業計画と予算の報告、規約の一部改正等が行われました。

留任となった小林会長ならびに新たに役員となった3人に抱負を語っていただきました。



平成8・9年度の協会役員

役職	氏名	備考
会長	小林裕幸	
副会長	綾部恵市	
〃	橋本静子	
理事	高橋秀忠	
〃	長沢芳明	
〃	山室公義	沼津商工会議所代表
〃	梅島佐一	沼津青年会議所代表
〃	青木章夫	企画広報部会長
〃	高橋悠子	同副部会長
〃	道前聰子	国際理解教育部会長
〃	高澤啓子	同副部会長
〃	近藤和子	ふれあい部会長
〃	杉山正人	同副部会長
〃	増田八彦	カラマズ一部会長
〃	中村房子	同副部会長
〃	本多伝	岳陽部会長
〃	佐々木資郎	同副部会長
監事	多賀義明	
〃	安田政義	

会長 小林裕幸

会員各位より再度ご理解を賜りましたことは、感慨の極みであり、同時に責任の重みを痛感しています。国際交流の取り組みにはマニュアルや終点がなく、当協会としてもまだ多くの課題・研究余地があります。協会自身の成長はもとより、益々進む国際化に対応した事業の構築や実践に向け、新たな決意で臨むものです。引き続き皆様のご協力をお願いいたします。



理事 長沢芳明

“真の意味での国際交流”とは何か？ まずは交流の目的や協会の役割を改めて認識することが大切だと思います。会員の皆様が積極的な意見を出し合い、一丸となった活動をしたいです。



理事（企画広報部会副部会長）

高橋悠子

会員と外国人の架け橋となる“沼津式の交流”を考えていきたいです。また、協会情報の発信・PRの広範化から仲間を増やし、楽しく活動したいと思います。



理事（岳陽部会副部会長）

佐々木資郎

中国に対する興味から会員に、そして今度は岳陽部会の副部会長に…。大変な重責があります。一所懸命に取り組みますので、よろしく願いいたします。

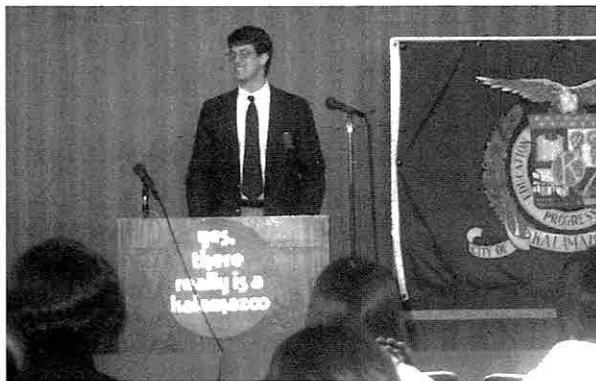


KALAMAZOO NEWS

NICE で紹介、カラマズー市

4月13日、沼津市民文化センターで「カラマズーを紹介する集い・Yes, there really is a Kalamazoo」を開催しました。

これは、沼津市の姉妹都市・カラマズー市を広く知ってもらおうと初めて開いたもので、カラマズー市からの英語教師による町の紹介やビデオ上映を行い、約50名の来場者にカラマズー市をPRしました。



留学高校生に植松久恵さん

カラマズー市へ1年間派遣する高校生の選考会を4月21日に行いました。

今年は4名の応募者があり、その中から不二聖心女子学院高等部2年生の植松久恵さん（下香貫塩満）を留学生として決定しました。

植松さんは8月に渡米し、来年の6月までホームステイをしながらカラマズー市の公立高校に通う予定です。

★植松久恵さんの一言

「3年前に知り合ったカラマズーの友達からアメリカやアメリカ人に興味を持ち、もっと知りたいと思いました。今春にアメリカを訪れて、さらにその気持ちが強くなりました。そして、自分自身や日本についても客観的に見てみたいと思います。」



Kalamazoo - A unique & special place?



沼津市の姉妹都市・カラマズー市（アメリカ合衆国ミシガン州）とは、どのような都市なのでしょう？

ここでは「カラマズーを紹介する集い（4/13）」で、デレック・トリゼンバーグさん（カラマズー市から来沼している沼津市立沼津高校の英語教師）が語ってくれた内容の一部を紹介します。

アメリカ人なら誰でもカラマズーという地名を知っています。それは、20年くらい前に流行したアメリカの有名な歌に出てくるからです。でも誰もその町が本当にあるなんて考えていないのです。「出身はカラマズーです」と言った私を笑っている人に「そうじゃないよ、カラマズーって本当にあるんだよ」と答えました。カラマズーの人たちは町の外に出た時みんな同じ経験をしたのです。カラマズーに関する特別な言葉「Yes, there really is a Kalamazoo」はこうして生まれました。

最初、私はつまらない名前、つまらない町をちょっと恥ずかしく思っていました。でもアメリカ中を旅行した今では故郷を自慢したい気分です。私は、カラマズーは典型的なアメリカ

の都市であることに気づきました。アメリカのどこへ行っても湖、自然、人間、町、そして何でもかんでもアメリカ的といった場所を見かけます。そういうことから、私は今「カラマズーは“ユニーク”ではないけれど“特別”だ」と思っています。

カール・サンドバーグという有名な作家が、カラマズーは地図のここにあるよそこには電車が止まって人が降り工場が煙を吐き…土曜日の夜は耳をすませてごらんアメリカの音がする

こんな風にカラマズーをうたっています。皆さんもぜひ一度行って「アメリカの音」を実感してみませんか。



ユエ ヤン シャオ シー
岳 陽 消 息

岳陽だより・飯塚信子さんからの手紙

NICE 会員で、今年3月から友好都市・岳陽市の外国語学校に赴き、日本語の教師を勤めている飯塚信子さんから便りが届きました。

ここでは、その一部を紹介します。

岳陽市の、そして富岳外国語学校での生活は期待に反して(?)とても快適です。学校は2年制の高校のようなもので、昨年9月に開校したばかりです。さしずめ日本のペンションを大きくしたようなオシャレな建物で、南湖のほとり、世界龍船競争の観覧席の真ん前に建っています。町中の喧騒からも離れていて、空気も汚れていません。その中で外界との接触がほとんどない健全な生活を送っています。

とても大切にされていて、一人ではまだ町に出してもらえず、町に出かける時は誰かがついてきてくれます。お腹をこわしてひどい下痢をしたのですが、お医者さんと呼んでくれて、日本から薬を持ってきたからと言ってもダメで、お医者さんのまずい薬を飲まされました。「中日友好のため」と思い仕方なく飲みましたが、お陰ですぐに治りました。



中国語はあまり上手にならないかもしれませんが。流暢な英語をしゃべる先生が2人いて、英語で用が足りてしまいます。

週20時間の授業ですが、空き時間と夜は準備にあたふたしています。私の人生の中で一番真面目に働く1年になりそうです。岳陽市で初めての日本人教師、この学校で初めての外国人教師という重責を日増しに感じざるをえない状況です。

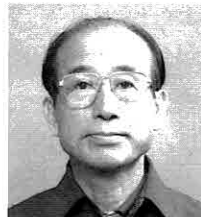
岳陽市への留学生、今年は5人

岳陽高等師範専科学校への留学生に5人の応募があり、決定しましたので紹介します。



杉山亜希さん (千本西町)

- NICE 会員
- 27歳、会社員
- 中国武術を専攻 (3カ月)



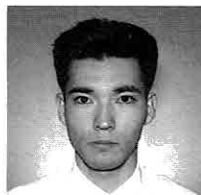
松尾文三郎さん (沼北町)

- NICE 会員
- 70歳
- 中国語と中国画を専攻 (3カ月)



松尾チズヨさん (沼北町)

- 69歳
- 中国語と中国画を専攻 (3カ月)



山本 諭さん (下香貫島郷)

- 23歳
- 中国語を専攻 (6カ月)



上野順子さん (大岡)

- 19歳、静岡大学2年生
- 中国語を専攻 (1年)

今年は、例年にも増して多くの応募がありました。留学生の皆さんは9月に岳陽入りし、各々が専攻した科目の授業を受けることとなります。がんばってください!



日航キャプテンが披露 「すばらしい旅行の楽しみ方とは」 —— 盛会だった“国際交流サロン” ——

3月2日、ホテル沼津キャッスルで、日本航空アジア・オセアニア路線室長でB-747機長の齋藤俊正さんを講師に迎え、「キャプテンからみた海外見聞」と題した国際交流サロン（講演会）を開催しました。

180人もの参加者を前に、齋藤機長はジャンボ旅客機のモデルを使いながら飛行の原理やフライト中の楽しみ方、また海外での病気や盗難に対する備えなどについて分かりやすく語ってくれました。

講演後には、「客席ではどこが一番乗り心地が良いのですか?」「飛行中に操縦席を見に行ってもいいのですか?」などのユニークな質問も飛び交い、和やかな雰囲気での講演会でした。



日本語を語る会「講師勉強会」

3月16日、沼津市民文化センターで、「日本語を語る会」で外国人に日本語会話のお手伝いをしている講師の皆さんが勉強会を開きました。

講師に三島市国際交流協会の鷹野順子さんを招き、やさしい日本語の教育法や外国人に日本語を教える時のノウハウを学びました。



いい汗かいた スポーツ交流会



3月24日、沼津勤労者体育センターで、在住外国人とのスポーツ交流会を開催しました。

参加したのは外国人25人と日本人55人。恒例となったバドミントンやバレーボール、バスケットボール、インディアカ、綱引きに加え、今回はユニホック（屋内で行うホッケー）を新しい種目としてとり入れ、好みに応じた種目を楽しむとともに相互の交流を深めました。

女王陛下の国から「コンニチハ」

財日本外交協会の招きで来日した英国青少年団員（高校生ら20人・引率者4人）が、4月5日～8日にNICEの受入れにより沼津市を訪れ、2泊3日のホームステイを楽しみました。

沼津に英国からの一行が訪れることは稀なこと。来日スケジュールの関係で短い滞在となりましたが、ホストファミリーの温かいもてなしの中で普段着の日本の家庭を楽しみ、沼津を知ってもらうことができました。

沼津を離れる日には市内の高校で入学式を見学し、同じ高校生世代としての体験もして、沼津の思い出を胸に次の目的地に向かいました。



TEA TIME



寄稿

「中国・美食の旅」

—— 杉山 寿 (NICE 会員)



今年の3月20～24日、私は2度目の中国旅行に NICE 会員の有志ら7名と出かけました。

旅の目的は、同行した岳陽部会長の本多さんのライフワーク「中国式・目の体操」の現地視察と杭州、上海での美食体験でしたが、ここでは「食」のことについてペンをとります。

今回の旅行に際しては、通常中国旅行では味わえない料理を食べたいと思い、出発前に旅行メンバーの高木空穂さん (NICE 会員) とメニューを念入りに検討しました。中国の旅行会社とも綿密な打合せを重ね、その結果、美味なる料理を存分に堪能することができました。

杭州で食した一品は、美食の詩人・蘇東坡ソンボウフが作ったといわれる「東坡肉」。これは、豚肉をこっくりとアメ色になるまでやわらかく煮込んだ、甘辛い角煮風のものでした。

「鳳沌元鶩」ファントンユアンヒエ。これは、スッポンの甲羅をはずして頭、手、足、胴をブツ切りにし、香辛料を入れて煮込んだものでした。お椀の真ん中に



頭が飛び出ていたのが不気味でしたが、油が多いのにあっさりしていて非常に美味でした。

羽をとり内蔵を出した鶏に具を詰め、蓮の葉チイホアチイで包んで蒸した「叫化鶏」。この料理は俗に乞食しきどろ鶏といわれているもので、清の時代、乞食が盗んだ鶏を地面を掘って埋め、そこに王様の行列が来て焚き火をし、地面を掘り返したところ一羽の鶏の蒸し焼きが現れた——それが美味であったというのが由来とか。食の歴史の重みを感じました。



その他、上海の和平飯店で食べた蛇のブツ切りスープ、干しエビとインゲンの炒めもの、トウガンのスープなど、いずれもウマイものばかり…。また、様々な調味料や香辛料を自分の好みに合わせて混ぜ合わせ、それを付けて食べるという食法も体験することができました。

帰国して多少体重が増えたという感もありますが、私としては、中国料理の良さと“食事は旅の良さを左右する大きな要素”ということを再認識できた楽しい旅でした。

井上秀雄さんが水墨画展で入選

平成5年9月～平成6年7月に岳陽高等師範専科学校へ留学し、中国画を専攻した井上秀雄さん (NICE 会員) が、このほど「第1回総合水墨画展・自由部門 (日本美術教育センター主催)」において入選受賞されました。

井上さんは留学中に岳陽市で作品展を開いたほか、洞庭書画院の名誉顧問の称号を受けて帰国。昨年7月には沼津市内のギャラリーで留学報告を兼ねた習作展覧会を開催し、それ以後も日々創作に力を入れています。

今回の入選は、こうした中での作品が高い評価を得たものです。おめでとうございます。



入選作品を手にする井上さん

国際交流なんでも情報室

新しいNICEの事業

海外支援に向けて

NICE（企画広報部会）では、本年度からの新しい事業として、国際協力・援助に向けた調査研究等の活動を進めていくこととなりました。

内容としては、生活物資等の支援を目標に掲げ、これの調査を始めたところです。（現在のところタイ国の北部地方を検討中）

当事業に関しては、会員の皆さんの協力のもと、プロジェクトチームの発足やスタッフ募集などを考えています。詳しいことは次号以降にお知らせしていきます。



図書紹介

「中国式 目の体操」

NICE会員の本多伝さんが、このほど「視力がよみがえる！ 中国式 目の体操」（マキノ出版ムック）を出版しました。

本多さんはNICEの岳陽部会長で、静岡県眼科医会顧問、医学博士、岳陽市第二人民医院名誉技術顧問でもあり、日本と中国で眼科治療に携わる傍ら、中国眼科の研究を続けています。

今年3月には中国・杭州市の中学校等を訪問して目の体操の実践状況を視察。4月にはテレビ番組に出演し、目の体操による近視、老眼、疲れ目などの撃退法を紹介しました。

目のストレス解消、視力回復など関心のある方はご一読を…。



今年は参加しませんか？

みんなで踊ろう「燦々ぬまづ踊り」

7月に開催される「燦々ぬまづ踊り」に今年もNICEチームは参加します。

多国籍だから国際色いっぱい！ 踊りはNICEオリジナルで、誰でも簡単に踊れます。

皆さんの参加をお待ちしています。



- 開催日時 7月19日(金)、午後6時～
- 参加費 無料
*参加者には夕食を用意し、参加賞が出ます
- 募集人員 40名
*知り合いの外国人がいましたらお誘い合わせてお申込みを！
- 練習予定 7月に踊りの練習を4回行う予定
- 申し込み NICE事務局 ☎34-2529へ

編集通信

情報をお寄せください

「ザ・NICE」編集部では、本紙に掲載する原稿や情報を募集しています。

外国人と接して感じたことや紀行文、また、多くの人に紹介したい国際的な情報などを原稿にしてお寄せください。

原稿は手書きでもかまいません。写真や地図など資料もあれば添えてください。

なお「ザ・NICE」は、5・8・11・2月に発行します。原稿はNICE事務局で随時受け付けています。

